

「もしも」は急にやってきます。

2016年4月14日に発生した熊本地震も、

急に携帯の緊急地震速報が鳴り響き、数秒後の大きな揺れに怖い思いをしました。

皆さんは、緊急地震速報を受け取った時、どのように行動されましたか？

揺れが来るといふ心構えにはなったものの、とっさに何をすれば良いか迷われた方も多いのではないのでしょうか。

今回の地震でも改めて感じたのは「知っておく、こと大切でした。」

それは、天災についてだけではなく、高齢者や子どもの事故が一番多く起こるのは、実は家の中。

日常に潜む危険や万一の事態から家族を守るために、

気をつけておくことや対処法、備えておくべきことについてご紹介します。

撮影 = 堅山 哲 Satoshi Tateyama 文 = 中西理恵 Rie Nakanishi

Just in case!

《特集》

もしもの備え!

今回の地震を受けて、改めて防災グッズを準備しておかなければと思われた方もいらっしゃるのでは？大規模な災害が起きて公的な支援が届くまでに必要なものの一列をリストアップします。家庭によって必要なものは異なりますので、何が必要か家族で話し合ってみませんか？

- 飲料水 ○非常食 ○救急セット ○懐中電灯
- 生理用品・紙おむつ・おしりふき ○携帯ラジオ ○簡易充電器や電池
- 携帯電話用バッテリー ○旅行用洗面道具（歯ブラシなど）
- ウェットティッシュ・ティッシュペーパー ○ラップ ○ビニール袋
- タオル ○貴重品類（現金・通帳・印鑑）

※「ローリングストック」がおすすめ

日常で使うものを多めに常備して使いながら、いざという時に備えることを「ローリングストック」と言います。食品や水は消費期限があるので、普段から備蓄品を使って回転させておくこの方法だと安心です。ストックしておく量としては、水や即席麺、火を使わずに食べられるレトルト食品など、4日分×家族の人数があれば安心です。



【住まいの危険な場所】

③ 階段…転倒、転落

階段はすべての世代で事故が起こりやすい場所です。転倒や転落は、一歩間違えると大怪我や死亡事故につながることも。勾配はできるだけ緩く、一段の高さも可能な限り低くしましょう。乳幼児がいる場合は、ヘビーゲートを立てて侵入を防ぎましょう。また、夜間のために廊下や階段にはセンサー灯などの常夜灯を設置するようにしましょう。

【住まいの危険な場所】

④ キッチン

ポットやコンロ、炊飯器や食洗機の蒸気による幼児のやけどに注意！
包丁などの危険なものは手の届かない場所にしましょう。

【住まいの危険な場所】

⑤ リビング

タバコなどの異物誤飲、ソファやテーブルからの転落などリビングにも危険はいっぱい。小物類は出しっぱなしにせず、コンセントにはカバーをしましょう。引っ掛けやすいコード類やカーペットのめくれは、高齢者にとっても危険です。

【住まいの危険な場所】

⑥ ベランダ

子供は何でも台にしてしまうので、ベランダや窓際には踏み台になるものは置かないようにしましょう。

【住まいの危険な場所】

⑦ 玄関

玄関敷居の段差は極力小さくしましょう。玄関マットも滑りやすいので注意！

【住まいの防犯対策】

② スリム窓

トイレや浴室の小窓に面格子が付いていることに安心して鍵をかけ忘れるケースも多いので、侵入されにくい大きな窓を選ぶのもひとつの方法です。



【住まいの防犯対策】

① 防犯玄関ドア

自然の風を迎え入れる機能を持たせた採風タイプのドアで、玄関を「風の通り道」に。ドア本体に設けた内開き窓や上げ下げ窓は、施錠したままでも風を取り込めるよう、防犯面にも配慮した設計となっています。



【住まいの防犯対策】

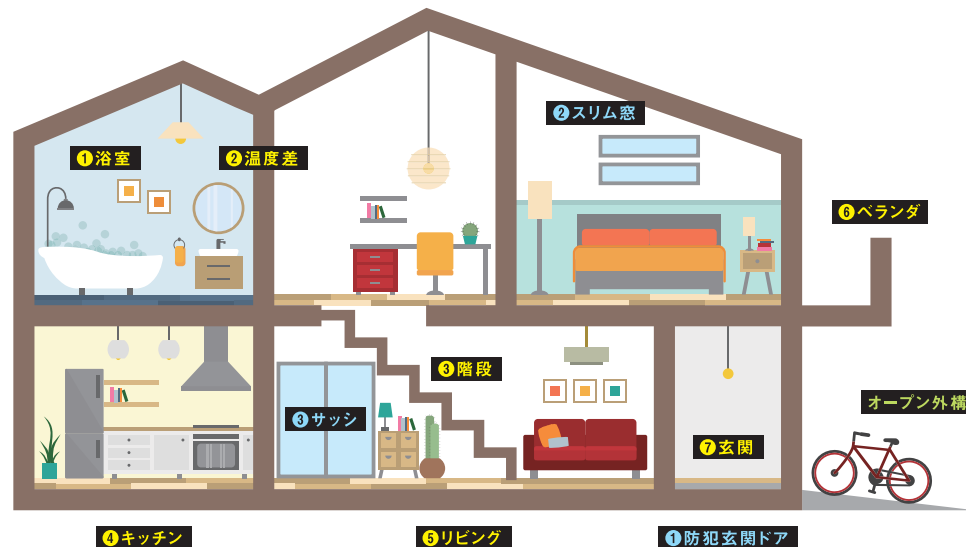
③ サッシ

空き巣の侵入手段としては窓のガラス破りが一番多いそう。引き違いサッシには一般的にクレセント錠が付いていますが、少なくともそれに鍵を1個は追加しましょう。追加の鍵は、クレセント錠から離れた場所に取り付けます。ヤマサハウスのサッシは、標準で上下に鍵がついている製品を採用しています。



日常のもしもに備える

子どもや高齢者の事故の多くは家の中で起こっています。家庭内事故を防ぐためにあらかじめ配慮しておく、子どもや高齢者だけでなく家族全員心地よく暮らせる`やさしい家。につながります。また、家庭内の事故に加え、欠かせないのが防犯対策。大切な住まいへの侵入被害を防ぐために「狙われにくい」「侵入しにくい」をキーワードに、考えてみましょう。



【住まいの危険な場所】

① 浴室…転倒、溺水など

お風呂での事故は大怪我につながりやすく、大変危険です。小さいお子さんがいる家庭では、日頃から浴槽のお湯は抜いておく習慣をつけましょう。



【住まいの危険な場所】

② 居室間の温度差…ヒートショック

ヒートショックとは暖かい居間などから寒い脱衣室や浴室にいきなり入ることによる急激な温度差によって、血圧の乱高下などを引き起こすので、死亡に至ることもある危険な現象です。家の断熱性能を高め、家全体の室温を均一にすることが大切です。

◀ 高気密・高断熱+遮熱の夏涼しく冬は暖かい住まいは、家族の健康を維持し、冷暖房効率も高いので経済的。



万が一のもしもに備える

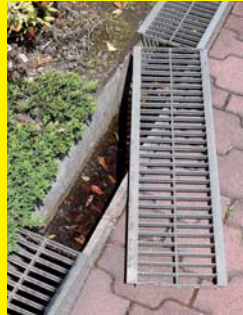
台風、集中豪雨、地震、津波、火山。鹿児島で備えるべき自然災害は数多くあります。特にこれからの季節は大雨や台風によって、さまざまな災害が起こる危険性があります。これらは発生がある程度予測できるので普段の備えはもちろん、直前の対応も被害を抑えるポイントとなります。いざというときに落ち着いて行動できるよう、知識と意識も備えておきましょう。

台風・大雨で起こる災害

時に大災害をもたらす集中豪雨や台風。しかし自然災害の中でも、予報や予測が可能です。梅雨・台風シーズンを前に、もう一度チェックしてみましょう。

【普段の対策】

- 1 自治体で作成・発行している「ハザードマップ」で、家や職場付近の洪水や高潮、土砂災害など危険箇所を確認しておきましょう。
- 2 側溝や排水溝のゴミや泥を取り除き、普段から水はけをよくしておくように心がけましょう。
- 3 屋根や外壁、窓ガラス、ブロック塀などは定期的に点検し、痛みがある箇所は早めに修繕を。
- 4 家の周りの再点検をして樹高が高すぎたり、枝葉が混んだ庭木は剪定・刈込みを普段から行なっておきましょう。



【直前の対策～大雨・台風が近づいてきたら】

1 最新の台風情報の確認をする

テレビやインターネットなどで、気象情報をチェックして警報・注意報・台風の進路など最新情報を確認しましょう。

【直前の対策～大雨・台風が近づいてきたら】

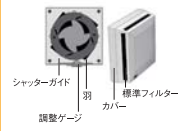
2 雨戸・シャッター

早めに閉めましょう。また、しっかりとロックをかけてください。ロックが錆び付くなど不具合が無いか事前に点検を。雨戸のない窓は、飛来物によるガラス破損に備えてカーテンを開けておきましょう。

【直前の対策～大雨・台風が近づいてきたら】

3 給気口（換気システム）

吹き込みを防止するため、シャッターガイドの調整ゲージつまみを左側へスライドさせ、羽を完全に閉めた状態にしておきましょう。
※風圧によって多少の吹き込みが発生する場合があります。



【直前の対策～大雨・台風が近づいてきたら】

4 カーポート・アルミテラス

片側支持タイプの場合は着脱式サポート支柱を必ず取り付けてください。風当たりによって屋根材のパネルが飛ばされる恐れがあるため粗めのネットやロープで固定するなど補強して飛散しないようにしましょう。



【エクステリアの防犯対策】

オープン外構

最近では、門扉や塀を作らないオープン外構の住まいが増えてきました。敷地を広く使えて開放感があることがメリットです。外から隠しておきたい部分にだけ目隠しや塀を設置するセミオープン外構も、程よい開放感とプライバシーを守られる点が人気です。見通しがいいために不審者が潜みにくいという利点はありますが、フェンスなどが無い分敷地内に侵入しやすいので、やはり防犯対策は必要です。

2 音の出る砂利を敷き詰める

砂利には、防犯性を高めるために踏むと大きな音が鳴るものがあります。家の周りに防犯用の砂利を敷き詰めれば、不審者の侵入に気がつきやすくなります。

3 カメラ付きインターホンをつける

オープン外構の家には、訪問販売や飛び込み営業の人も入りやすいのでカメラ付きインターホンをおすすめします。家の中から訪問者を確認できるので、ドアを開けずに対応することができます。

4 ベランダの柵もオープンに

屋根つたいにベランダへ侵入されないために、ベランダの柵も隙間があるものや透明なものなど、目隠しにならないものにしましょう。



1 センサーライトをつける

人の動きに反応して明かりがつくライトは、防犯に効果的です。自動的に点灯した後は時間が経てば消灯するので消し忘れもなく経済的。

【オープン外構の家の注意点】

1 庭木を茂らせない

外部から人が侵入しやすいオープン外構の家は、不審者の目隠しとなるような庭木を茂らせないようにしましょう。

【オープン外構の家の注意点】

2 庭に物を乱雑に置かない

すさんだ雰囲気は不審者を引き寄せます。また、放火される危険もあります。

【オープン外構の家の注意点】

3 戸締りを忘れない

ゴミを出すだけ、回覧板を持っていくだけ、でも窓とドアの鍵は必ず締めましょう。のぞきや盗撮にも注意が必要です。夜カーテンを開けずに電気を付けた部屋の中が丸見えです。

【オープン外構の家の注意点】

4 周りの家とも合わせよう

住宅密集地の場合は、一軒だけ違う外構スタイルの家があると悪目立ちします。また、郊外で隣家との距離がある場所や、昼間でもあまり人通りのない場所、夜間真っ暗になる場所、周りがクローズド外構ばかり、などの場合はオープン外構には向いていません。周辺環境も考慮しましょう。



住まいづくりでできる、もしもの備え

ヤマサハウスでは、桜島の活発な火山活動や暴風雨、地震などの自然災害から家族を守るために、家づくりの際にさまざまな工夫を行っています。

制震ダンパー



建物に代わってエネルギーを吸収し、建物の損傷を低減するもので、ヤマサでは油圧式を採用しています。(※3階建ては標準。2Fではオプションで施工)

家族構成やライフスタイルによって「もしもの備え」は変わってきます。いざという時のために、家族でもう一度以下のことを確認しておきましょう。

◎避難場所と避難ルート

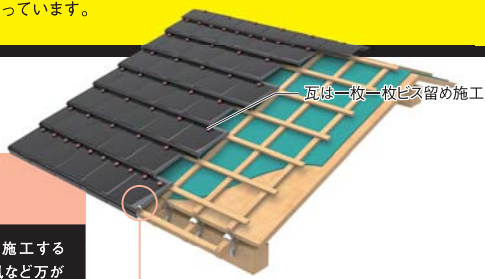
◎万が一の連絡先と連絡方法

台風や大雨、地震などが過ぎ去ったら建物や家の周りを点検しましょう。もし、屋根瓦や外壁、カーポートが破損していたり、窓が割れたりしていても、ご自分で修理しようとはせず最寄りの弊社各営業所までご連絡ください。※被害が大きい場合は特に混乱や遅れが生じることがございます。予めご理解とご協力をお願いします。



屋根瓦

瓦を1枚ずつビス留め施工することにより、地震や台風など万が一の災害にも負けない施工になっています。瓦1枚1枚の固定強度を高めた瓦全面ビス留めに併せて、さらに瓦同士の連結力を高め、より強固な耐風性・耐震性を実現します。



耐震等級3

※一部商品・間取りによっては異なります。

住宅性能表示制度および耐震診断により、建物がどの程度の地震に耐えられるかを示す等級のことです。耐震等級は建築基準法の耐震基準を満たせば「等級1」、その1.25倍なら「等級2」、1.5倍なら「等級3」となります。耐震等級を取得した住宅は等級に応じて地震保険の割引が受けられます。ヤマサハウスは標準で「耐震等級3」となっています。

省令準耐火仕様

省令準耐火構造の住宅とは、建築基準法で定める準耐火構造に準ずる防火性能を持つ構造として、住宅金融支援機構が定める基準に適合する住宅をいいます。また、一般の木造住宅と比べると火災保険料(料率)が割安になります。

太陽光発電システム



もし災害などで電気の供給がストップしても、太陽光発電システムがあれば日中太陽が出ている時間帯は電気を使うことができます。ある程度でも電力供給できることは、一つの安心になるといえるでしょう。また、最近では蓄電できる太陽光発電が目立っています。

【直前の対策～大雨・台風が近づいたら】

5 門扉

門扉は閉めた状態にして鍵をかけ落とし棒をかけてください。ロープ等で固定しておくより効果的です。伸縮門扉は開けた状態で束ねてロープ等でしっかりと固定してください。閉めていると破損する恐れがあります。



【直前の対策～大雨・台風が近づいたら】

6 庭・ベランダ

強風で枝が折れたり倒れてしまう場合がありますので枝をロープ等で束ねたり添え木等でしっかりと固定しておきましょう。ベランダなどにおいてある植木鉢や物干し竿など飛ばされる可能性のあるものは室内に取り込んでおきましょう。



地震への備え

地震はいつどこで起こるか分かりません。普段から地震に備え、いざという時の行動を考えておきましょう。

【地震への心構え】

1 強い揺れに対する心構え

家族の身を守るために、自宅の耐震性を確認し、転倒防止金具などで家具は固定しておきましょう。

トイレや浴室でグラツときたら…

トイレや浴室は柱や壁が多く、家の中では比較的安全です。ドアが開かなくなる可能性があるので扉を開けて、そのまま揺れが収まるのを待ちましょう。追焚き中の場合は速やかに火を消して。

寝ている時にグラツときたら…

就寝中に大きな地震が起きた場合は、揺れがおさまるのを待ちましょう。寝室には倒れやすい家具をおかないようにしましょう。押しつぶされやすい1階よりも2階に寝室を設けた方が安全です。

キッチンでグラツときたら…

キッチンは食器棚など物がたくさんあるので、コンロの火を消して速やかにその場を離れるようにしましょう。大きな揺れの場合は、無理に火を消そうとせず、すぐその場を離れて。強い震度の場合、自動的にガスは遮断されます。

車を運転中にグラツときたら…

急停車せずにハザードランプを点灯して徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車しましょう。エンジンを切って揺れがおさまるまで車外には出ないようにしましょう。車を離れる場合は、キーをつけたまま窓を開けて、ドアロックもしないでください。

【地震への心構え】

2 火災に対する心構え

突然の揺れにはまず自分の身を守ることが大切です。地震の揺れはほとんどのケースで1分以内。消火活動は揺れが収まってから十分間に合いますので、慌てず確実にいきましょう。

【地震への心構え】

3 津波・土砂災害に対する心構え

地震が起こったら、津波情報に注意しましょう。海岸付近の場合、強い揺れ感じた時はすみやかに高台へ避難しましょう。大きな揺れがおさまった後の余震にも注意が必要です。がけ崩れが起こりそうな場所や川沿いの道路などには近づかないようにしましょう。